

- 25) 平木 潔, 真田 浩: 胆嚢症と寄生虫, 臨床と研究, **39**: 334, 1962.
- 26) 長島秀夫: 肝炎症候群としての胆嚢症, 第43回日本消化器病学会シンポジウム, 1957.
- 27) Gitelson, S. et al.: Gallbladder dysfunction in diabetes mellitus, The diabetic neurogenic gallbladder, *Diabetes*. **12**: 308, 1963.
- 28) 三好秋馬: 胆道ジスキネジー, 新内科学大系, 24巻, p. 244, 中山書店, 東京, 1975.
- 29) Ivy, A. C. & Goldman, L.: Physiology of the biliary tract. *J.A.M.A.*, **113**: 2413, 1939.
- 30) 山元七次: 肝外胆道の薬理学的研究, 医学研究, **22**: 564, 1952.
- 31) 玉沢佳巳・他: 胆道ジスキネジーに関する実験的研究知見補遺, 日消誌, **58**: 45, 1961.
- 32) Berg, G. S.: Sphincter mechanism of common bile duct in human subjects, its reaction to certain types of stimulation. *Surgery*. **11**: 299, 1942.
- 33) Crema, A. et al.: Occurrence of α - and β -receptors in the bile duct, *Proc. Soc. Exp. Biol. & Med.*, **120**: 158, 1965.
- 34) Dardick, H. et al.: Adrenergic receptors in the canine biliary tract, *Surg. Gynec. & Obstet.*, **128**: 823, 1969.
- 35) Ivy, A. C. & Oldberg, E.: A hormone mechanism for gallbladder contraction and evacuation, *Amer. J. Physiol.*, **86**: 559, 1928.
- 36) Caroli, J.: L' hormone inhibitrice de la cholécystokinine, *Arch. Mal. Appar. Dig.*, **49**: 1858, 1960. 文献 20) より引用
- 37) 中山 沃: 胆道系運動の神経性及び化学的調節, 岡山医学会誌, **81**: 1, 1969.
- 38) Mallet-Guy, P. et Eicholz, L.: Sympathectomie thoracique elective pour syndrom d'hypotonie des voies biliaires, *Lyon chir.*, **45**: 744, 1950. 文献 39) より引用
- 39) 吉岡 一: ラジオマノメトリーによる胆管圧異常症の診断とその治療法, 綜合臨床, **8**: 289, 1959.

学会ニュース■

■第35回日本癌学会総会・第17回日本肺癌学会総会開催さる

関心あつめた2つのシンポジウム

「がんの細胞分化-Epigenetic 調節異常としてのがん-」

「発癌性と特然変異誘起性との相関, その理論と実際」(癌学会)



▲ 盛況あつめた日本肺癌学会

“癌”の解明をめぐつて基礎と臨床から多角的なアプローチを試みる日本癌学会と日本肺癌学会の、それぞれ35回総会, 17回総会が, さきごろ期を一にして東京で開かれた。癌学会は会員5000余を数えるマンモス学会だけに3日間の会期中800余の演題を消化したハードスケジュールであつたが, 今総会の白眉は, 対峙する2つの論, すなわち癌発生に関する2つのシンポジウムに尽きるだろう。「がんの細胞分化-Epigenetic と調節異常としての癌」では, 発癌現象を細胞分化という見地から有意な考察を加えられたのを始め, 「発癌性と特然変異誘起性との相関, その理論と実際」では, 新しい発癌物質のスクリーニング法として脚光を浴びている発癌物質の突然変異誘起性を用いて検索する方法について, 理論から technique に至るまで多彩な内容をもつて聴衆に開陳された。

番 (56%), ④番 (33%), ⑥番 (11%), ⑩番 (17%), ⑪番 (22%) に高率であり, 胃全摘, 脾合併切除の必要性が示唆される。

なお, この報告の要旨は第 6 回日本消化器外科学会大会で発表した。

文 献

- 1) 秋山 洋・他: 胃癌の食道進展型式, 胃と腸, **7(6)**: 801, 1972.
- 2) 秋山 洋・他: 食道再建手術における胸骨後トンネルの作り方, 外科治療, **28(6)**: 693, 1973.
- 3) 有馬純孝・他: 胃全摘症例の検討, 臨床と研究, **52(5)**: 1432, 1975.
- 4) 胃癌取扱い規約 (胃癌研究会) 第 9 版, 金原出版, 京都, 1974.
- 5) 磯野可一・他: 噴門部癌の特性—とくに胸腔内リンパ節転移について, 外科, **32(5)**: 457, 1970.
- 6) 堀 哲郎・他: 上部胃癌に対する切除術—胃壁癌深達度とリンパ節転移の実態に関連して, 手術, **23(2)**: 129, 1969.
- 7) 食道癌取扱い規約 (食道疾患研究会) 第 2 版, 金原出版, 京都, 1972.
- 8) 曾我 淳・他: 食道裂孔を越えた食道噴門接合部癌切除例の検討—リンパ節転移からみた外科的治療の意義, 日消外会誌, **7(3)**: 252, 1974.

学会ニュース

第 38 回日本臨床外科医学会総会開催さる 注目あつめた“大腸癌”に関する 3つのシンポジウム

5 年ぶりの東京開催に熱気



消化性潰瘍の手術適応と術式の選択で特別講演を行なう慈恵医大 長尾房大氏



この10月, 東京, 霞ヶ関の国立教育会館を中心に5つの会場で開かれた日本臨床外科医学会総会は8つの特別講演, 6つのシンポジウム, 2つのシネ・シンポと盛り沢山の演題を無事消化して閉幕。大腸癌の診断と治療に大方の関心が集中するなど, 文字通り, 臨床外科医を糾合, 好学会となった。



メインホールは老若を問わず外科医で埋め尽くされた